

論文審査の結果の要旨

| | | | |
|---|-------------------------------------|----|-------|
| 報告番号 | 博(医歯薬)甲第 361 号 | 氏名 | 佐道 紳一 |
| 学位審査委員 | 主 査 塚元 和弘 副 査 黒田 直敬 副 査 西田 孝洋 | | |
| 論文審査の結果の要旨 | | | |
| <p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、抗 MRSA 薬であるテイコプラニンの治療効果やバンコマイシンの血中濃度に影響を及ぼす因子を同定するために TDM を行い、これらの薬剤の血中濃度と病態（治療効果や合併症および副作用）との相関解析を行ったものであり、目的は十分に妥当である。</p> | | | |
| <p>2 研究手法に関する評価</p> <p>治療対象の MRSA 患者群を、治療効果の有無や悪性腫瘍の合併の有無、あるいは腎障害の出現の有無で分け、両群間で血中濃度に影響を及ぼしている PK-PD 上の因子をロジスティック回帰分析で解析しており、研究手法も妥当である。</p> | | | |
| <p>3 解析・考察の評価</p> <p>テイコプラニンの治療効果に影響を及ぼす因子はトラフ血中濃度であった。また、悪性腫瘍の患者におけるバンコマイシンの危険因子はバンコマイシンのクリアランスであった。さらに、バンコマイシンの腎障害誘導因子はトラフ血中濃度とトラフ血中濃度/1 日投与量であり、腎機能の悪化を予測するためのカットオフ値をそれぞれ算出した。</p> | | | |
| <p>以上のように本論文は、抗 MRSA 薬の TDM を実施することにより、個々の MRSA 患者において、各々の治療効果や副作用の出現に関与する因子を追求することができ、それに続くテーラーメイド医療の実現に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（薬学）の学位に値するものと判断した。</p> | | | |